

# クリティカルシンキングの能力および志向性が 共感の正確さに及ぼす影響

○矢澤順根<sup>1</sup>・古川善也<sup>2</sup>・中島健一郎<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>広島大学大学院教育学研究科・<sup>2</sup>愛媛大学教育学部)

## 問題・目的

現代社会では、膨大な情報の中から自分に必要かつ適切な情報を取捨選択することが求められる。そのために重要なのが「適切な基準や根拠に基づく論理的で偏りのない思考」、すなわちクリティカルシンキング (CT) の獲得である。

CT は課題や問題解決などの論理的な側面だけでなく対人関係などの社会的側面においても有効に影響する可能性が指摘されているものの (e.g., 廣岡他, 2000), これまではその可能性の主張にとどまり実証的な検討は行われていない。

本研究では対人関係の指標として、他者の内的感情や思考を正確に推測する能力である共感の正確さに着目し CT の影響の検討を行う。共感の正確さは他者と良好な関係を築くうえでも重要な能力とされている (Schmid Mast & Hall, 2018)。先行研究では CT 能力の関連概念である体系的思考力が、高い共感の正確さに影響することが認められている (Ma-Kellams & Lerner, 2016) ことから、本研究では高い CT 能力を持つ人ほど高い共感の正確さを示すと予測した。

## 方法

**調査参加者** クラウドソーシングサービスの登録者 150 名 (平均年齢 40.6 歳, SD=9.80) が参加した。分析には回答に不備のなかった 143 名のデータを使用した。

**使用尺度** CT 志向性尺度 (廣岡他, 2001) から他者の存在を想定した社会的 CT 志向性と他者の存在を想定しない論理的 CT 志向性 37 項目、日本語版ワトソングレーザ批判的思考能力テスト (WGCTA; 久原他, 1983) の SM (2) から 2 題を使用した。体系的思考力の測定には 認知反射テスト (Cognitive Reflection Test; CRT) 3 題を使用した。共感の正確さの測定には、アジア版まなごしから心を読むテスト (Reading the Mind in the Eyes Test (RMET); 吉川・野村他, 2006) 36 題を使用した。RMET は、画像の人物の目とその周辺部分のみを手掛かりに、その人物の感情を認識す

る能力を測定するテストである。

**手続き** クラウドソーシングサービスを通して、実験・調査協力を依頼した。実験・調査には Inquisit Web を使用した。参加者への負担を考慮し、実験・調査は 2 回に分けて実施した。

## 結果

CT や体系的思考力が共感の正確さに及ぼす影響を検討するために、CT 能力、社会的 CT 志向性、論理的 CT 志向性、体系的思考力を説明変数とし、共感の正確さを目的変数とした重回帰分析を行った。その結果、CT 能力の共感の正確さに対する有意な影響が認められた ( $\beta = .176, p = .04$ )。しかし、社会的 CT 志向性 ( $\beta = .107, p = .40$ )、論理的 CT 志向性 ( $\beta = .029, p = .82$ )、体系的思考力 ( $\beta = .163, p = .06$ ) については、いずれも共感の正確さに対する有意な影響は見られなかった。

## 考察

分析の結果、CT 能力と共感の正確さの間に有意な正の関連が示された。よって、「CT 能力の高い人物はより高い共感の正確さを示す」という予測は支持された。CT は自分の推論過程を意識的に吟味する思考である。CT 能力が高いことで他者に対して抱いた印象についてより正確に吟味し、その結果より質の高い感情や思考の推測が可能になったと考えられる。

以上のことから、良好な対人関係を築くためには、特に CT 能力が重要となる可能性が示唆された。集団の和を重視し、他者との対立を避ける傾向が強い日本では、CT の論理的側面での有用性を強調しすぎることは、むしろ CT が他者に対する配慮に欠けた不適切な思考であるという誤った理解を引き起こしている可能性がある (抱井, 2004; 元吉, 2011)。こうした現状があるからこそ、本研究において CT の能力に関する対人的な有用性が明らかにされた点は注目に値する。なぜなら、今後の CT 教育において対人関係における利点を強調するきっかけとなるためである。その点に本研究の意義があると考えられる。